

「ままごと」の新聞

newspaper of
mamagoto

第8号

「ままごと」の新聞は、
柴幸男の作品を上演する団体「ままごと」が
不定期に発行する活動報告紙です。
発行日：2013年12月1日
発行元：ままごと

「街と演劇」

小豆島の春と夏と秋と

柴 幸男
Yukio Shiba

今年、小豆島で過ごしたあの日々は、劇団にとって、僕にとって、財産となるような経験でした。僕たちはあの島で何をしようとしていたのか、闇雲に動いていたあの日々を振り返ってみようと思います。

春、は何よりもまず居場所をつくらうと必死になっていました。この港に、演劇をする者がいることを知ってもらう。そして、港にその存在を認めてもらう。劇場をつくって閉じこもるのではなく、港全体を劇場にしたいという妄想に向けて、これは避けられない手続きだと考えました。だから、町の中で演劇を生み出す「おさんぼ演劇」なるものをつくり始めました。以前に観劇し、感動した「ボタライブ」(劇作家・岸井大輔による移動式演劇)と呼ばれる趣向を自分なりに、この港でやってみようと思ったのです。

ずっと港を歩いていました。朝から夕方まで。港のことを知っていたかったし、僕のことを港に知ってほしかった。港を聞いたこと、見たことを土台に、物語をつくりました。誰かの現実、創作した物語を植え付ける。その作業は、何か大きな過ちを犯しているような気分になる時もあります。この物語の中で、僕は、港で育ち、港で死にました。この物語を、小豆島出身の町長が気に入ってくれたのは、少しだけ、作品がただの冒険ではないと思えたありがたい出来事



春の柴幸男、蓮沼執太くんを出迎えた写真です



島めぐりライブ出演者の集合写真



紙しばい屋さん営業直前の新菜さん



酒屋のおばさんたちの話を聞く名児耶さん



島めぐりライブ、cafeのテラスにて

なって思い出されます。劇団員の端田新菜、そして客演の名児耶ゆりさんを連れての約1カ月の滞在。彼女たちにはお題だけを与えて、模索してもらいつつ自分の劇場をつくっていったもらいました。僕が春にした作業を、彼女たちにもやってもらいたかった。そして、彼女たちなら、僕とはまったく違った結果をつくることができると思います。新菜さんは紙芝居を、名児耶さんはお客さんとの会話から生まれるダンスを、作品にして、港をどこへせましと移動し上演してくれました。

印象的だったのは、新菜さんが、取り付けてきた営業(？)。どうも自宅を介護しているお婆ちゃんがいるから家に来て上演してほしいという話でした。では居間で静かめに上演するかとみんなで楽器や紙芝居を持って行ったら、なんとお家の土間にずらりと客席が。近所のおばさま方や、たまたまバスを待っていた観光客まで巻き込んで、僕たちも、もてる技術を駆使して歌、体操、ダンス、紙芝居を上演、最後は全員で「ふるさと」を合唱して、大団円(?)を迎えたのです。最後の1週間は、こんなことが毎日、彼女たちは、僕の予想以上に、この

港全体を劇場に変えてくれました。

思い出せば秋は、島めぐりライブという移動式ライブから始まりました。簡単に言えばちんどん屋ですが、音楽家たち、たまたま遊びに来ていた友人たちに協力してもらい、港に音楽を振りまき歩きました。このスタートがなければ秋の躍進はなかったと思います。そして、この作品を手掛けたのは僕ではなく、制作の宮永琢生でした。そこが何より良かったと思っています。

小豆島で僕が目撃していたことが二つありました。島に訪れた劇団員全員が自分の作品をつくること、そして来年以降も小豆島で活動することを、地元の人と、自分たちと、港と、約束すること。その二つの目標は、無事に果たし、今年の小豆島は幕を下ろしました。

Yukio Shiba

82年愛知県出身。青年団演出部所属。日本大学芸術学部在学中に『ドドミ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わか星』にて第54回岸田國士戯曲賞を受賞。同年に劇団「ままごと」を旗揚げ。

瀬戸芸が終わって

唐橋幹隆

柴さんに逢ったのは、1年前になりました。一人の若者が小豆島で演劇をやるうとしていて、演劇のことは何も知らない私は、地元の坂手で演劇が本当に出来るのだからと不安に思いつつ、その時に話をしてくれただのが坂手の路地裏を歩きながら所々で演劇を見せるというものでした。

瀬戸芸が始まり、お散歩はいつの間にか演劇になっていくので感心と感動をしました。坂手の案内はしていた私たちですが、それが泣けてくる演劇だったのでファンになりました。

最終日前日、私は劇団ままごとを観る機会がありました。介護をする家族や必要としている人たちが、話をしたり歌を歌ったりしているコミュニティーの場で、ままごとLIVEが行われました。

そうめん体操、踊りや歌や、紙芝居など、食い入るように見ている姿や笑顔、涙や名残惜しい顔を見ている私も幸せに思う時間でした。

瀬戸芸が地元にとって良かったなあと考えて、これからもぜひ関わってほしいと再確認した出来事でした。

ままごとの試みを今後も続けてもらい、訪れる人と地域の人たちが顔を合わせ、声を掛けあえる関係から、支え合える関係が築けたらいいのになあと思っています。

この1年間ありがとう。おさんぼ演劇・歌と踊りと紙芝居ありがとう。

今も青いウィンドブレーカーを着た人を見ると、柴さんを探してしまう小豆島のもつしやんでした。

からは、もつたか瀬戸内国際芸術祭2013小豆島島の郷土坂手港プロジェクトにて、「ままごと」が活動した坂手地区に住む小豆島町役場職員、瀬戸内国際芸術祭2013の坂手地区担当であり、小豆島町水道課長の顔も持つ。愛称は「もつしやん」。

from 香川

「ハートのビート。」

vol. 06

宮永琢生【制作】

瀬戸内国際芸術祭2013「港の劇場」もひとまず無事終了し、約1カ月ぶりに東京に戻ってきました。小豆島の活動は、音楽的に言うと「ままごと eat」名取耶ゆ「だったわけですが、結果的には「ままごと eat」名取耶ゆと星野概念実験室 with friends」みたいになって、もうなんだかお祭り騒ぎでした。あ、あとにも一な端田新菜の息子（1歳3カ月）ともずっと一緒に生活しておりまして、一日一日おどろくような成長を遂げる彼を見守りながらの生活は何と云うか……毎日か誕生日みたいな日々でした。ゆり、いつか、星野概念実験室のみんな、本当にお疲れさまでした。みんなと一緒に小豆島に行けて楽しかったです。ありがとう。



平賀さち枝
「ギフト／いつもふたりで」

2012年に、柴幸男が参加した音楽劇『ファンファーレ』の関連企画で行った「ままごとライブ」でもやさしい歌声を披露してくれた彼女の1年半ぶりとなる最新音源シングル盤ながら4曲入りのポリューム・リンド曲は「ギフト」というタイトル通り、まさに歌の贈り物。爽やかなメロディと春の訪れを予感させるような温かな楽曲です。この寒い冬にオススメ。12月29日には、新代田 FEVER でレコ発ワンマンを行う予定。行きたい。

最後に、あらためて瀬戸内国際芸術祭に遊びに来てくれたお客さまや多くの友達たちへ心よりの感謝を。瀬戸芸はひとまず終了しましたが、この島のつながりはこれからも続いていきます。またいつか、たくさんの贈り物が詰まったあの島でお会いしましょう。

「いわきのこ」最終回

端田新菜【俳優】

今日で息子が1歳3カ月になりました。つまり昨日で2011年3月11日から2年8カ月。



2013.7 豊岡市にて。
いしいみちこさんと息子。

『Final Fantasy for XIII-3』(通称 F.F.) の東京公演を行いました。ほぼ2年が経過しましたが、出会ったこの1年生が今はもう3年生です。

『F.F.』の東京公演が終わったあと、私は何度かいわきを足を運ぶことができたんだっただけかな。終わってすぐ、いしいみちさんと打ち上げに、2泊ほど未だ旅行で行きました。それから館屋(清水)さんの「ブルーシート」と演劇部の「北校舎はつびせつ」とと若井(秀人)さんの「われわれのモロモロ」も観に行ったら、4回……思ったより少なかったです。

少なく感じたのは、たぶんメンバーはその時々によって変わったけれど、彼らが東京に来てくれたことも何度もあったからだと思います。2012年の2月には前田(司郎)さんの「チャンネルキー」に「ハフ旅行」の東京公演があったし、5月には『F.F.』を文部科学省に推薦されて来たけれど、7月には「ままごと」の朝があるをたたくさんと観に来られたし、2013年の2月にはまた前田さんの「初恋の味はシエノヘーゼの爪の味」の東京公演があった。あと7月に兵庫県の豊岡市で「北校舎はつびせつ」とが再演されて、その時はまたまた京都にいたから駆けつけることができました。

この連載は、6回目の今回をもっておしまいとします。編集の熊井さんからは以前「にいなちゃんがいわきとかかわりがある限りこの連載は続けたい方がいいと思ってる」と言ってもらってました。そうだなと思ったのですが、でもそうする(いつまでも続く)ことになら、ちやうかもしれないので、いったんおしまいします。私も高校生になった19年前に大人と人生が変わるだけかと思っていた平田オリザさんと、今でも一緒に仕事をしているから、もしかしたらいわきの子どもたちの未来をいつか、新しい時代の高校生を交えて仕事をすることを話せるかもしれない。

そしてきつとこれからも毎月、息子の月齢が一つ増えるたびに、みんなの顔とジャージの色とか夏の廊下の暑さとか冬の五反田やいわきの寒さとかを、思い出っただと思えます。そうだと、年が明けたら演劇部の新作「あひるの月13」を観に行きます。3月。楽しみです。

「縁談のテーブル」

大石将弘【俳優】

第3回

大石が、いま話を聞きたい人に会いに行く企画。今回は、舞台に立つ以外の俳優の仕事について、精力的に演劇のWSを行っている、とみやまあゆみさんと話をしました。



<お相手>
とみやまあゆみ
【俳優】

『自分が思う演劇を問われる場』

大石(以下、大) 今年ままごとは小豆島で、それぞれ作品つくったんですよ。それもあって、俳優がどこかにぼんと放り込まれた時に何ができるかって考えていて。作家や演出家がいなくて、自分だけができません。今思いつく一つがワークショップ(以下WS)なんですね。今日も一緒に小学校に行きましたけど、若い俳優さんとWSをちゃんと仕事にしているプリンちゃん(とみやまさん)と話したいと思って。

とみやま(以下、と) 仕事何してるんですかって聞かれてWSのこと言うの「先生として演劇を教えるんですわ」って言われるんだけど。そんなことはしてません。教えることはできないし、教える場ではないって思ってます。

大(笑) なんかWSが「知っている人が知らない人に教える場」みたいになってるのとありますよね。プリンちゃんはなんでWSやろうと思ったんですか。

と 私は、高校生の時につらかったんですよ。そんな中で演劇百貨店*のWSに出合っ。こんな演劇があるの？、みたいな。

衝撃を受けたっていうか。面白かったんですよ。小学校や中学校の中にこういう時間があったら私の人生変わったかもしれないって思う思いもあって。

大 分かります。かつてそこにいた自分はどうにかしたくなるんですかね。

と 去年初めて高校生とWSやった時、何やるかすごい困って。自分の興味とか、感じる疑問とか違和感を思い出せなくて、それないでその時気付け、それ以来、使言葉や大事にしたいポイントがはつきりした。試されますよね、自分とか自分が思う演劇っていうものを。だから自分のためによつて。

大 俳優って言葉を磨かなくてもやっていけるじゃないですか。演出家は言葉を磨かれるけど、俳優になんて言えはちゃんと伝わるかとか。プリンちゃんのWSっていつも磨に磨ける言葉がたくさんある。自分の中で整理されてるから言えるんだろうっていう言葉が。やっぱり自分の言葉をしっかり見つけたいといけない。そうでないとWSはやれない。

これまでにTHE・ガジラ、マームとジブシー、サンプルなどの劇団に出演。精力的な舞台活動の一方で演劇ワークショップにも携わる。東京・横浜を中心に学校や劇場で行われるワークショップの企画進行を行う。

NEXT

柴幸男【構成・演出】
大石将弘・端田新菜【出演】
宮永琢生【企画・制作】

Theater ZOU-NO-HANA vol.5
ままごと『象はすべてを忘れない』
<発表>2013年12月1日(日)・15日(日)
@象の鼻テラス&象の鼻パーク
www.zounohana.com

柴幸男【作・演出】

劇団うりんこ『私たちの妥協点(仮)』
2014年2月@うりんこ劇場
www.urinko.jp

大石将弘【出演】

FUKAIPRODUCE 羽衣「女装、男装、冬支度」
2014年1月29日(水)・2月2日(日)@座・高円寺1
www.fukaiproducte-hagoromo.net/
範宙遊泳「うまれてないからまだしねない」
2014年4月@東京芸術劇場シアターイースト
www.hanchu-yuei.com

宮永琢生【講師】

Next 舞台制作塾IV 宮永琢生ゼミ
Next Lab
『未来への方程式—いくつかの症例と「ままごと」の遊び方—』
2014年1月12日(日)・19日(日)・
26日(日)・2月2日(日)・9日(日)
@Nextセミナールーム
www.next-nevula.co.jp

編集後記

2013年最後の号となりました。小豆島での合宿生活を経て、更に結束力を強くしたままごと。彼らの2014年の活動にもぜひ注目ください。次号、第9号もお楽しみに。(熊井)

企画・編集=ままごと
構成=熊井玲
デザイン=西山昭彦

『わたしの星』上演決定!!

「時報を合図に、少女と星の一生を描いた『わが星』。その世界観を引き継いで、今回、新しい作品をつくります。どこかの星で起こった、誰も知らない、高校生たちの、一夜の出来事。この作品を、一緒につくってくれる仲間を探します。条件はひとつ、あなたが高校生であること。たくさんの星と出会えることを楽しみにしています。」 柴幸男



ままごと『わが星』撮影=青木可

ままごと『わたしの星』
作・演出 | 柴幸男

2014年8月21日(木)ー31日(日)
@三鷹市芸術文化センター 星のホール

現在、『わたしの星』高校生CAST&STAFFを募集中!
応募資格は、2014年4月1日に15歳-17歳の方。
またオーディションに先駆け、柴幸男による高校生向けワークショップも併せて開催します。ぜひふるってご参加ください。
詳細は、ままごとホームページ www.mamagoto.org まで。